



環境保全型農業に取り組んでいる佐々木邦基さん（畑野）にお話を伺いました。佐々木さんは、今年5月に設立された「(社)佐渡生きもの語り研究所」の副理事長をされています。



(社)佐渡生きもの語り研究所は、生きものと共生できる農業や、生物多様性の実現に向けた取組みを島内に普及していくための活動を行っています。生きもの

調査の講習会の開催や、子どもたちなどへの環境教育、生物多様性をテーマにした交流などが、主な活動内容です。

私自身も無農薬や、減農薬での米作りをしています。この4年間でトキ認証米の取組みがここまで広がったことは、すごいことだと思います。田んぼはお米だけを生産する場という見方から、お米と同時にたくさんのお米の育んでいくのだからと、農家の目が向き始めていると感じます。取組みの裾野がさらに広がり、持続的に発展していくためには、生きものと共生していくことの意義をより多くの人が豊かに語っていただけるようになることが、大切に思います。そのことに研究所の活動が貢献できればうれしいです。認証米に取り組んで、私自身にもい

くつかわりの変化がありました。

ひとつは、生きもの調査を通して、生きものの姿や気配がどんどん見えたり、感じとれるようになってきていることです。そのことが、生きものとの生息を知ったり、守ろうと行動することにつながっています。

ふたつめは、環境教育や交流の場面に「伝える」「表現する」ということも、これからの農家の大切な仕事であると思うようになったことです。生きものを守りながら作ったお米を食べてもらうことが、佐渡の農家、環境、トキ、風景などを守っていくことにつながるんだということを伝え続けていきたいです。

一方で、克服すべき課題も見えてきました。農薬を減らしたり、有機質肥料を増やしたり、生きものを増やすための取組みが、お米自体の収量・品質・食味の両立を難しくさせる側面もあると感じます。これは、生産地として、みんなで乗り越えなければいけないと思います。

今年、佐渡はジアス(世界農業遺産)に認定されました。ジアス認定が佐渡に求めている一番大切なことは、米作りや、トキとの共生、伝統文化の継承を、今後持続的に後世に伝えていける形にしていくことであると思います。佐渡の人が、佐渡の豊かさを見つめ、自らの暮らし方を選択していく必要があるでしょう。

これからも、米作りや研究所の活動を通して、自分自身を成長させていけたらと思っています。

ジアス

GIAHS・朱鷺と暮らす郷づくり 推進フォーラム(仮称) 開催!

日時 12月10日(土) 午後1時から 会場 金井コミュニティセンター 大ホール

内容 基調講演 国際連合大学 副学長 武内 和彦氏(予定)

※基調講演の後、3つのテーマについて分科会を開催します。

(内容については変更になる可能性があります)

お問い合わせ 市役所農林水産課生物多様性推進室 生物共生推進係(第2庁舎) ☎63-3761

